

他大学に先駆けて全職員 / 学生向けに 2要素認証を導入

教育機関への2要素認証導入のハードルを下げる Swivelのアカデミックディスカウント

TDU

東京電機大学

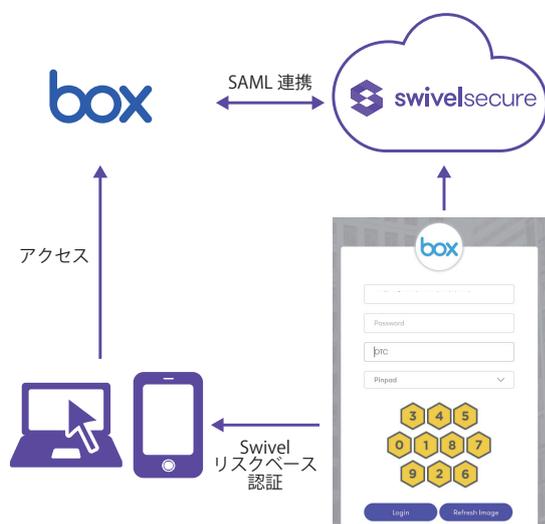
TOKYO DENKI UNIVERSITY

東京電機大学様（以下「TDU」）は、1907年に東京・神田に創立された「電機学校」を前身とし、1949年に開設された理工系総合大学です。6つの学部と大学院に4研究科を設置、中学校、高等学校も併設されています。100年を超える歴史のあるTDUは、建学の精神「実学尊重」、教育・研究理念「技術は人なり」のもと、技術で社会に貢献する人材の育成を目指しています。

NHKに先駆けてラジオ実験放送を開始し、日本初のテレビ公開実験の場所に選ばれるなど、創立者の大志「後世、科学技術の総本山たらん」を今に受け継いでいます。

システム更新のテーマはセキュリティ強化

TDUは2012年、東京千住キャンパスを開設しました。そのときに導入したネットワークシステムの更新を2017年に控え、新たに導入するシステムで、学内のセキュリティ対策の刷新を行うことになりました。TDUは、サイバー・セキュリティ研究所の設置やセキュリティ分野における高度人材養成のための「国際化サイバーセキュリティ学特別コース（CySec）」の開講など、セキュリティ分野の取り組みに注力してきたところで、学内システムのセキュリティ対策についてもTDUにふさわしいものが必要と考えたのです。



そのとき学内でセキュリティ製品の仕様策定を中心となって行ったのが「東京電機大学シーサート（TDU-CSIRT）」でした。

TDU-CSIRTは、TDUとTDUのブランド価値を守るために必要なインシデント対応および発生の予防を行う組織として設置され、活動しています。TDU-CSIRTは、2016年に日本シーサート協議会に大学組織として初めて加盟し、2018年には日本シーサート協議会の活動への貢献が評価され、チームとして表彰されました。

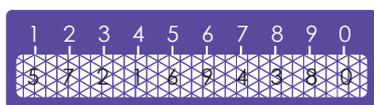
認証の強化に2要素認証を検討

東京電機大学総合メディアセンター事務部長でTDU-CSIRTのCSIRT長でもある高橋 陽子氏は、「セキュリティ対策の1つとして検討していたのが、2要素認証でした。多くの学生・教職員が使うポータルサイトは広く門戸を開けておかなければなりません。そうするとどうしても攻撃に晒される可能性が高まります。IDとパスワードだけでは守り切れないというのは、今や常識です。」と言います。「当時は生体認証などを幅広く検討していたのですが、ちょうどその頃に株式会社NSDビジネスイノベーションの増田氏からSwivelをご紹介いただきました。お話を聞いてみると、他社に無い特徴があり、使いやすそうだということで、検討することにしました。」

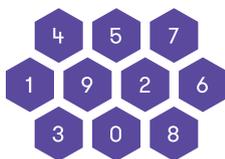
決定の理由は、利便性、コスト、使い勝手

実際に評価を担当した東京電機大学総合メディアセンター（企画・推進担当）でTDU-CSIRTのメンバーでもある藤田 圭祐氏は、「複数の認証方式を検討しましたが、最終的にSwivelのソリューションに決定したのは、大きく3つの理由があります。一つ目は、利便性の問題です。指紋認証や静脈認証のような特殊なデバイスを使う方法は、デバイスの配布や外出先での利用を考えると現実的ではありません。二つ目は、一つ目とも関連しますが、コストの問題です。1万人以上の学生・教職員が利用するソリューションとなると、指紋認証はもちろん、ハードウェアトークンなどでもコストがかかりすぎます。Swivelには教育機関向けのディスカウントがあったのも大きな理由です。」と言います。さらに「三つ目は、エンドユーザーの使い勝手です。コストを考えるとソフトウェアトークンを使うワンタイムパスワード（OTP）が最も適していますが、Swivel以外の製品だと特殊なパターンを覚えなければならないなど、

ユーザーの使い勝手が悪くなる恐れがありました。SwivelのPINpadは、直感的に使い方がわかり、しかもセキュリティはしっかりしています。実際、運用開始後も使い方がわからないという問い合わせはほとんどありません。」ということです。



TURing



PINpad

まずは Box へのログインに適用

2018年3月にSwivelが稼働し、まずは学生や教職員が教材や資料を共有するためのクラウドコンテンツマネジメントを提供する「Box」へのログインに2要素認証を適用しました。Active DirectoryとSAMLによって連携しています。その際、Swivelのリスクベース認証の機能を使い、ユーザー毎に2要素認証の要否を設定しました。教職員が学内からBoxにアクセスする際にはID+パスワード、学外からのアクセス時にはさらにPINpadまたはTURingによる認証が必要になります。学生は学内・学外からID+パスワードで認証します。

今後はポータルサイトの認証にも適用

そして2018年度は、学生向けの学内ポータルサイトへの

ログインにもSwivelを適用すべく、準備中です。藤田氏によると「SwivelはSAML経由で様々なソフトウェアと連携でき、ポータルサイトとも連携可能です。そのため、ポータルサイト自体を修正する必要がありません。この点も、Swivelを選んで良かったと思っている部分です。」ということです。

高橋氏も「Swivelの導入・運用は、それほどセキュリティに詳しくなくても充分に行えると感じました。現在、教育機関での2要素認証の導入はまだ進んでいるとはいいますが、皆さん必要性は理解しています。その際に、導入・運用のためのハードルが低ければ、導入を加速することができると思います。」と言います。

教育機関に最適な Swivel のアカデミック ディスカウント

そして、教育機関におけるSwivelのコストパフォーマンスを飛躍的に上げているのが、Swivel Secure社が世界的に適用している「アカデミックディスカウント」です。Swivelでは、学生用のアカウントは無料なのです。教職員数分のライセンス料を支払えば、全学の学生向けのアカウントを無償で発行できます。

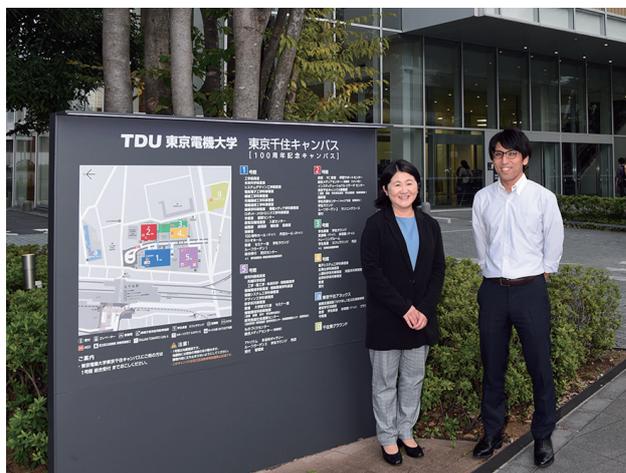
高橋氏からは「大学は教職員よりも学生の数の方が圧倒的に多いので、このディスカウントは本当に助かります。使いやすく、導入・管理もしやすく、しかもセキュリティはしっかりしていて、さらに低価格となれば、教育機関向けの2要素認証としては、Swivelは良いソリューションになるのでは無いでしょうか。」と、高評価を頂きました。

東京電機大学 基本情報 (平成30年5月1日現在)

創立	1907 (明治40) 年9月11日
学長	安田 浩
学生数	9,959人 (学部9,077人、大学院882人)
教職員数	609人 (教員423人、職員186人)
所在地	東京千住キャンパス (東京都足立区千住旭町5番) 埼玉鳩山キャンパス (埼玉県比企郡鳩山町石坂)
設置学部	システムデザイン工 学部、未来科学部、 工学部、工学部第二 部、理工学部、情報 環境学部



東京千住キャンパス



(写真左から) 東京電機大学総合メディアセンター事務部長 高橋 陽子氏
東京電機大学総合メディアセンター (企画・推進担当) 藤田 圭祐氏



セキュリティストリングス株式会社

〒102-0082 東京都千代田区一番町6番地 相模屋本社ビル7F
Email: sales@securitystrings.com
URL: http://www.securitystrings.com

©2018 Security Strings 本カタログに記載の会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。
本カタログに記載されている情報は2018年11月現在のものであり、製品仕様および機能は予告なく変更される場合があります。予めご了承下さい。

お問合せ